

平成 26 年度の山部会の活動進捗報告

1. 山部会の目標とテーマ（課題）

山部会の 3 ヶ年の活動テーマを以下に示す。

（3 ヶ年の目標）

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく
- WGの中で森づくりガイドラインの策定とモデル林によるモニタリングの試行的実施を行う。
- WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組みを山部会構成メンバーで実行

<テーマ>

<解決手法>

山村再生担い手づくり事例集

森林の適切な管理は山村再生が重要。まずは人づくりに取り組む。

山村ミーティング

山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。

森づくりガイドライン

流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。

木づかいガイドライン

矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

2. 今年度の活動実績

今年度の活動実績を以下に示す。全 7 回の WG を実施し、各回でテーマを決めて行った。

活動内容	日時	場所
第 16 回 WG (恵那) 25 名参加	5 月 16 日 (金) ~ 17 日 (土)	・ モンゴル村 管理棟 2F 会議室
第 17 回 WG (根羽) 17 名参加	6 月 12 日 (木) 14:00-17:00	・ 根羽村老人福祉センター しゃくなげ 1 F 大ホール
第 18 回 WG (豊田) 24 名参加	7 月 25 日 (金) 9:00-17:00	・ 豊田市役所足助支所 2F 第 3 会議室
第 19 回 WG (岡崎) 17 名参加	8 月 19 日 (火) 14:00-17:00	・ めかた商工会館 2 階 青年部婦人部研修室
第 20 回 WG (根羽)29 名参加	9 月 19 日 (金) ~ 20 (土)	・ 根羽村老人福祉センター しゃくなげ 1 F 大ホール
第 21 回 WG (岡崎)29 名参加	10 月 17 日 (金) ~ 28 日 (土)	・ 岡崎市 めかた会館 2 階 会議室
第 22 回 WG (恵那)17 名参加	11 月 21 日 (金) 14:00-17:00	・ 恵那市 明智振興事務所 ききょう会議室
第 23 回 WG (豊田)21 名参加	12 月 19 日 (金) 13:00-16:00	・ 豊田市役所足助支所 2F 第 3 会議室

※参加人数は事務局含む

3. 各テーマの活動進捗と課題

今年度に取り扱った主な活動進捗と課題について、山部会のテーマに沿って以下にまとめる。

<テーマ>	<今年度の活動>	<活動の進捗>
<p>山村再生担い手づくり事例集</p> <p>森林の適切な管理は山村再生が重要。そのためまずは人づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第16回 WG (今年度の進め方) 第17回 WG～第18回 WG (スケジュール・取材先について) 第19回 WG (取材先の決定共有) 第20回 WG (取材者の募集について) 第21回 WG (取材先と取材者の調整) 第22回 WG (取材スケジュールの確認) 第23回 WG (進捗報告) 	<p>〔進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 取材先として、川・海の団体を選定し、流域圏一体化に向けたきっかけづくりが行えた。 「山村再生担い手づくり事例集の対象を増やししながら、川部会・海部会とも連携しながら作成する」という年度初めの目標に沿って、現在、編集を行っている。 昨年同様、山村再生担い手づくり事例集 (vol. 2) が成果となる。
<p>山村ミーティング</p> <p>山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第16回 WG (今年度の進め方) 第19回 WG (イベントの企画について) 第22回 WG (情報共有:2015年2月のイベント) 	<p>〔進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度はWGにて関連する他団体の活動など情報共有を行った。 「各地域で実施されている活動と連携しながらできるところから進めていく。」という年度初めの目標に対し、持ち回りで行われている山部会の会議で地元団体からの出席が見られた。
<p>森づくりガイドライン</p> <p>流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第16回 WG (今年度の進め方) 第18回 WG (地域の森づくりの紹介:根羽村) 第19回 WG (地域の森づくりの紹介:岡崎市) 第21回 WG (地域の森づくりの紹介:岡崎市) 第22回 WG～第23回 WG (森づくりガイドラインについて) 	<p>〔進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインの作成が始まった。 流域圏を構成する自治体から特徴的な森づくりに関する情報収集(現地調査含む)を山部会WGで行った。
<p>木づかいガイドライン</p> <p>矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第16回 WG (今年度の進め方) 第17回 WG～第20回 WG (市民がアクションを起こせる木づかいの推進行動について) 第21回 WG (ガイドライン作成の方向性) 第22回 WG (ガイドライン作成事項の確認) 第23回 WG (ガイドラインイメージの提示) 	<p>〔進捗〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 「矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。」という目標に対し、木づかいガイドラインの骨子を示し部会で意見交換を行った。 意見交換を進め、市民・行政・学識者から見た木づかいの推進策をまとめた木づかいガイドライン(案)をまとめた。

(1) 山村再生担い手づくり事例集

■今年度活動により分かったこと

《先進活動団体の生の声》地域の自慢・苦悩・メッセージを聞き、情報共有が図られた。

- 昨年と同様の手法で、新たに 21 団体の取材を行った。(木の駅ねばりん、菊の会、竹内牧場、ゴバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館、三宅林業、東幡豆漁業、佐久島もんぺまるけ、アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会、足助里山ユースホテル、新盛里山耕流塾、近藤しいたけ園、こいけやクリエイト、アグロプエルタ、とよたプレーパークの会、じさんじょの会、額田林業クラブ、宮ザキ園)
- 山村で活動する団体のみなさんの生の声や活動について、取材を通じ山村再生の担い手支援(田舎暮らしの心得など)につながる情報を収集できた。



取材時の様子



取材先団体の活動の様子

《自発的な編集会議の開催》取材ノートの執筆支援と取材先団体の情報共有の場が創出された。

- 事例集編集過程では、取材者同士が集い、読み合わせを通じて、取材先の活動に対する意見交換や情報共有を行い、団体の活動について知りたいことなどを意見交換する編集会議を開催した。結果として、山村再生担い手づくりそのものへの理解が深まった。
- 編集会議で出た意見は、山部会WGでもメンバーに報告され、WG内での情報共有が図られた点で意義がある。

《期待される今後の交流》取材先同士が交流できる場の創出についてアイデアが出され始めた。

- 取材先同士の交流の場があると、互いの苦悩や山村再生に対する思いが語られ、担い手づくりの一層の推進が期待出来るとの意見が出され、今後、企画していくことが提案された。

■運営方針に見る活動進捗状況

目標：WGの中で山村再生担い手づくり事例集の作成を行い、作成を通じて得られた人のつながりを活かした山村再生に向けた活動を山部会構成メンバーが行っていく。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。
山部会では、山のことを知ってもらうため、山村再生担い手づくり事例集の作成を、流域圏（特に市民が中心）で一体的に行っていることを提案する。また、ここで実施するヒアリングを通じた交流のしくみを川部会や海部会にも提案したい。



〈活動進捗状況〉

- ・ 取材者として、海部会や川部会に所属する懇談会メンバーの参加もみられ、昨年同様に連携できた。取材参加者数が伸び悩んだ点で課題がある。
- ・ 取材者同士での中間報告会などを行いながら、取材レポートの編集を行いながら、内容の充実を図り、全体会議には事例集（案）といったかたちで参加者に披露したい。
- ・ 今回の取材で得た活動団体とのネットワークをいかしつつ、取材先間の交流の場などを企画していくことがよいなどの意見が出され、山村再生に関わる新しい交流やアイデアの誕生が期待できる。

■今後の課題

- 取材を通じてえられた取材者と取材先の交流が継続的に保たれ、流域圏の活性化につながる仕組みづくりが必要。
- 取材先間の交流の場の企画について、実現の可否、実施体制を検討していくことが必要。
- 長期的には、今年度作成した事例集と合わせて平成25年度に作成した事例集を、流域圏全体に周知していくことが必要。

(2) 山村ミーティング

■今年度活動により分かったこと

《矢作川流域圏でのイベント企画》他地域で行われる特徴的な山村ミーティングの情報共有

- 岡森フォレストーズ、中川町きこり祭りなどのイベントの周知が行われ、来年度以降に矢作川流域圏で開催することに向けて機運が高まった。



他地域の参考例

■運営方針に見る活動進捗状況

目標：山村再生担い手づくり事例集に登場する、流域圏の人と山村の課題に取り組んでいる若者が互いに交流することで、それぞれの取り組みを進化させると同時に、発信し広めていくためのアイデアを生み出していく。

運営方針：平成 25 年度は地域の既存の活動の様子を見ることとし、流域圏懇談会としてミーティングを主催することは見送った。

〈活動進捗状況〉

- ・ WGを流域圏の地域で持ち回りで行ったことで、各地域で行われるイベント等について、WGメンバーでの共有化が図られた。
- ・ 木の駅が、根羽、恵那、豊田それぞれで立ち上がり、岡崎市額田町でも準備が始まり、山村ミーティングの開催に向けた体制・機運が高まってきた。

■今後の課題

- 流域圏の人と山村の課題に取り組んでいる若者を集い語り合う「山村ミーティング」の開催に向け、実施メニューや実施体制など、具体的な企画案の検討が必要。

(3) 森づくりガイドライン

■今年度活動により分かったこと

《「矢作川流域の森と樹木」の作成》流域圏の森の全体像の理解が可能な資料の作成が始まった。

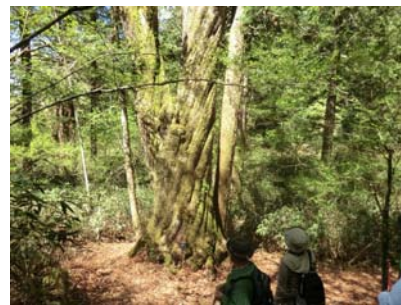
- 流域圏の森林の地図、森林面積や人工林面積、間伐実績などの統計的情報、流域圏を構成する各市町村の森林づくりの行政目標、各地区の特色ある森づくりのアピールをまとめた「流域圏の森づくり」や「特徴的な森と樹木」をまとめた「矢作川流域の森と樹木」の作成が始まった。

《各地区の森の特色の情報共有》持ち回りで開催したWG開催地にあわせて現地視察を実施

- 各地区の森づくりの特徴について、WGの開催地である岡崎市、豊田市、恵那市、根羽村それぞれの特徴的な森についてWGメンバーで現地視察を行い、情報共有を行った。



森づくりガイドラインに掲載している
「流域圏の森づくり」の例
(岡崎財産区有林)



森づくりガイドラインに掲載している
「特徴的な「森と樹木」」の例
(アライダシ自然観察教育林)

■運営方針に見る活動進捗状況

目標：WGの中で森づくりガイドラインの策定、モデル林の設定とそこでのモニタリングの試行的実施を行う。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。

〈活動推進状況〉

- ・ WGを流域圏の地域で持ち回りで行ったことで、各地域の課題や森づくりの特徴について現地視察なども行いながら実施でき、WGメンバーでの共有化が図られた。
- ・ 森づくりガイドラインの目的と構成が共有され、記載する事項などの共有化が進み、情報収集ができた。

■今後の課題

- 各地域の特徴的な森づくりについての情報収集は、各回のWGの場のみで行うことが困難であることから情報収集の仕組みが必要。
- 情報収集と並行し、森づくりガイドラインの作成を進めていくには、掲載情報や作成・執筆の分担など、ガイドラインの作成の進め方に関する役割分担の検討が必要。

(4) 木づかいガイドライン

■今年度活動により分かったこと

《「木づかいガイドライン」の作成》これまでに意見交換した内容をふまえて作成が開始された。

- 矢作川流域圏の木材利用を3県の住民・字御者・行政が一体となって推進するきっかけづくりをふまえ、それぞれができることを利用者のライフステージ毎に整理したライフステージアタック表が作成され、それぞれの取り組みについて意見交換を行った。
- 上記をふまえて木づかいガイドラインのイメージを作成した。

《多くの意見が出た「木材利用の推進」について》WGにてブレーストーミングで実施。

- 矢作川流域圏の木材利用を3県の住民・字御者・行政が一体となって推進するきっかけづくりについてブレーストーミングにて行った。ブレーストーミングの観点は以下の通り。



木づかいの推進につながる取組の見学
(木の家@根羽村)



木づかいの推進につながる取組の見学
(森林組合新庁舎建築
@豊田市足助)

木づかいの推進につながる取組の見学
(木の駅プロジェクト
@根羽村)



■運営方針に見る活動進捗状況

目標：WGの中で、木づかいガイドラインの策定を行い、ガイドラインを活用した木づかいの取組を山部会構成メンバーで実行する。

運営方針：事例集やガイドラインは更新していくことを前提として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、柔軟に見直しを行っていく。

〈活動推進状況〉

- ・ 木づかいガイドラインに記載する「日常的に木づかいの推進に結び付く行動（さあ～しよう）」の行動が複数案出され、提案者・モニター・場所について意見交換が行われた。
- ・ 「全国スギダラケクラブ」と連携した「スギダラケクラブ矢作川流域圏支部」が設立され、木づかい推進に向けた取り組みがはじまった。
- ・ 上記に関連し、スギダラどこでもシリーズやスギダラキャラバンなど、木づかい推進に向けた取組みについて情報共有が行われた。

■今後の課題

- 多様な情報をガイドラインとして取りまとめていく際、メンバー間の役割分担について具体的な役割分担を検討しておくことが必要。

4. 山部会全体及び他部会との連携における進捗と課題

■運営方針に見る活動進捗状況の評価

〈評価のまとめ〉

- ・ 4つのWGの活動報告と活動に対する意見交換が行われ、進捗があった。昨年同様に、山村再生担い手事例集が作成できたことや、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの作成目的・ガイドラインの構成について共有できた。
- ・ WGは、矢作川流域圏の地域それぞれ持ち回りで開催したため、これまで参加のなかった団体からの出席がみられた。

〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 3つのテーマについて、**それぞれ作業WGを立ち上げ、内容の検討を行い、全体WG（現在の山部会WG）にて、情報共有を図る。**
（「運営方針（1）全体WGと個別作業WGによる運営」より）
- ・ 当初3ヶ年ではコアとなる検討メンバーは決定したが、コアメンバーだけでは策定が難しいことから、**作業メンバーの確保と活動を通じて作業メンバーの拡大を図る。**
（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有」より）
- ・ 実際の作業工程や役割分担について、メンバー間で共有した上で、事例集、ガイドラインの策定作業へ移行する。
（「運営方針（2）当面は検討体制づくりと作業の進め方の共有」より）
- ・ **事例集やガイドラインは更新していくことを前提**として、できる範囲で行い、その活用を通じて得られた知見に基づき、**柔軟に見直し**を行っていく。
（「運営方針（3）できる取組みから実行する」より）
- ・ 事例集やガイドラインを活用した取組みは、山部会構成メンバーが**できることから試行的に行っていく。**

〈他部会との連携方針からみる取り組み状況〉

- ・ 事例集のヒアリングを山川海メンバーで行うことで、流域圏一体化のきっかけにする。（「運営方針 他部会との連携方針」より）
- ・ できれば、市民会議の活動として位置づけ、市民中心で活動展開を行っていく。（運営方針「他部会との連携方針」より）

■連携上の課題

- 作成した事例集やガイドラインに対する意見収集や効果的に周知・広報していく場や仕組みづくりが必要。

矢作川流域圏懇談会通信

H26 山部会編 vol.1



発行日：平成 26 年 5 月 16 日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 16 回山部会WGを開催しました！

5 月 16 日（金曜日）に第 16 回山部会WGが開催されました。
今回のWGは、平成 26 年度はじめてのWGということもあり、
昨年度から山部会で取り組んでいる 4 つのことについて、今年度の
進め方等について話し合いました。

日時：平成 25 年 5 月 16 日（金）～17 日（土）
場所：モンゴル村 管理棟 2F 会議室
参加者：26 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

昨年度は山村で活動している 20 の団体へ矢作川流域圏懇談会（以下、懇談会）として取材を行い事例集としてとりまとめました。

懇談会と取材者の新しい交流が生まれ、生の声を聞かないと分からない各団体の特徴等について記録することができました。今年度も取材対象のエリア、団体を変えて実施していくこととなりました。



2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングは矢作川流域圏の山村で活動する個人・団体が困ったときに話し合え、様々な情報を共有可能となる仕組みづくりを行うことを目的に進めています。

今年度も矢作川流域圏で開催されている結の炭家などへ参加し、山村で活動する方々と連携が可能な範囲でゆるやかに実施を継続していきます。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインは、矢作川流域圏の特徴的な森づくりを、最終的に冊子としてとりまとめることを目的に進めています。

今年度は昨年度に引き続き、矢作川流域圏に属する行政や市民の方々と森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行います。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現化するための実践的なとりくみについて話し合ってきました。

今年度は、活動方針を共有化したうえで、具体的な当面の活動として矢作川流域圏における木づかいの事例・活動を参考にしながら川・海部会の方々と連携も含めて話し合っていきます。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度は対象を増やしながらか、川・海部会の方々とも連携して進めていくこととなりました。

○主な意見

- ・山村再生事例集の対象を増やし、流域再生担い手事例集としてとりまとめられるとよい。(蔵治)
- ・岐阜で活動している団体があれば教えて頂きたい。(洲崎)
- ・取材者の募集も引き続きかけていく。応募したい方は洲崎氏に連絡する。(事務局)
- ・各団体の所在地・活動範囲などがわかる資料があるとよい。(今村)
- ・今年も川と海の部会にいてPRをする。(洲崎)



●山村ミーティングについて

昨年度同様、各地域で実施されている活動と連携しながら、できるところから進めていくこととなりました。

○主な意見

- ・矢作川流域圏の山村で活動している若手同士、課題や悩みについて相談し合える仕組みを作ればよい。(丹羽)
- ・既存の木の駅プロジェクト等の活動と連携しながら進めていくことがよい。(丹羽)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

ガイドラインの作成に向けて、今年度とりまとめる内容、役割について情報共有がなされました。

○主な意見

- ・今年度も引き続き検討を進め、来年度くらいにガイドラインとして冊子にまとめたい。(蔵治)
- ・矢作川流域の特徴的な森づくりについて、カタログ化していく。(蔵治)
- ・岐阜県は健全で豊かな森づくりから、地域展開型の森づくりを実施している。県内にある25の森のうち2つをモデル林として選定しているため、森づくりとして取り上げてほしい。(高井)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについて、これまでライフステージごとに木づかいの推進方策について、意見交換をしてきました。

今後は、ガイドラインの作成方針にもある「市民目線」を意識していくことが重要とされたため、ガイドライン作成にあたり今後のパートナーとなりうる方を、メンバーから推薦していくことが決まりました。今後、検討をすすめていく中で共同して作成していくことの認識が共有されました。

○今後の実施予定

- ・木の駅に関して、個人の木の利用、簡易製材・ちょっとした木工の製作。ベンチ、小屋みたいなものを作って山の中に拠点を作るイメージはある。(南木)
- ・木工教室みたいなものを開催できないか。子供用の本棚や大人向けの食器棚などを作って家で使えるとよい。(松井)
- ・大阪府の森林環境税の委員会では、ヒートアイランドの防止のために木質の外壁、屋上パネルへの助成をしている。そういう製品を作れるとよい。(蔵治)
- ・木の駅プロジェクトでベンチなどを作るとまちの雰囲気が変わる。森の中の24坪の敷地、製材所の横で不良材をどんどん使える。(丹羽)
- ・豊田のまちなかは殺風景ともいわれており、まちなかに緑や木の物を増やしたい一方で、自然としての矢作川を売り込むことも面白い。例えばモデルポケットパークなんかもおもしろい(洲崎)
- ・木を使うという面では移住した人たちに木を使ってもらって、燃料でまきを燃やす。切り捨て間伐を活用できないか。(山本)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回の山部会は6月19日(木)に開催します。



矢作川流域圏懇談会通信

H26 山部会編 vol.2



発行日：平成 26 年 6 月 12 日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 17 回山部会WGを開催しました！

6 月 12 日（木曜日）に第 17 回山部会WGが開催されました。
前回のWGで決めた 4 つの活動についての方針に基づき、今回のWGでは、「山村再生担い手づくり事例集について」と「矢作川流域圏木づかいガイドラインについて」について話し合いました。

日時：平成 25 年 6 月 12 日（木）14 時～17 時
場所：しゃくなげ 1F 大ホール
参加者：15 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



昨年度に引き続き作成することとなった「山村再生担い手づくり事例集」については、今年度の進め方（スケジュール）を確認するとともに、各地域における取材先候補について話し合いました。

また、各部会間の連携を進めることを目指して、川部会・海部会メンバーに取材への参加を呼びかけながら進めていくことが確認されました。



2. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動を考え、これを核とし、その行動・活動を行政・業界・研究が支援していくことを目指しています。

流域内で関連する方々へ呼びかけていくことも引き続き進めていくことが重要との指摘もあり、今年度も流域連携を進めていくこととして情報共有がされました。



3. 山川海の流域連携について



平成 26 年 5 月 14 日に開催された第 12 回市民企画会議にて議論された流域連携のテーマについて、主な担当者について紹介され、情報共有がされました。

流域連携のテーマは、次の 3 テーマが掲げられ、山部会からも、メンバーが選出されました。

1. ごみ・流木、2. 土砂、3. 木づかい



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集の作成スケジュールについて

以下のように進めることを想定します。

7月(取材先の選定) → 8月(取材者の募集) → 9月(取材者と取材先のマッチング)
→ 9月中旬:取材実施(11月までを予定)

昨年と同様、取材後には12月~3月の間で、取材者によるレポートの作成・提出を予定しています。取材の募集に関しては、メーリングリストとともに川・海の部会で連絡する。

●取材先について

- | | | | |
|----------------------|--|--------------------------------|--------------------------------|
| ●長野県 根羽村
・木の駅/菊の会 | ●愛知県 豊田市
おいでん・さんそんセンター/アンティマキ/てくてく
農園/足助里山ユースホステル NPO 法人都市と農山村
交流スローライフセンター/新盛里山耕流塾/しもやま
里山協議会/近藤しいたけ園/こいけやクリエイト | ●愛知県 新城市
・NPO 法人 BIO de BIO | ●愛知県 岡崎市
・じさんじょの会/林業ク
ラブ |
|----------------------|--|--------------------------------|--------------------------------|

- 取材先への連絡は根羽村は南木さん。恵那市は丹羽さん。豊田市は洲崎さん。岡崎市は沖さんが行うこととなりました。

○主な意見

- 事例集の取材先同士が集まれる仕組みがあるとよい。(今村)
 - 取材先同士が集まって、事例集の出版記念のようなイベントで交流ができると面白い。(松井)
 - 有志ででもそのような会が開けるとよい。(洲崎)
- 昨年度、取材したところを再び訪れて、追加取材という形式をとっても面白い。別の観点から取材することで、新たな情報収集が可能となり有意義と思う。(近藤)
- 関係者へ流域圏懇談会や取材趣旨を説明するにあたって、分かりやすく説明できる資料があれば提供してもらいたい。(南木)
 - 昨年度作成した山村再生担い手事例集で説明することがよい。巻頭には矢作川流域圏懇談会の説明も入れてある。(洲崎)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインは、ライフステージに着目して推進方策について、意見交換をしてきました。今後は、ガイドラインの作成方針にもある「市民目線」を意識していくことが重要とされたため、「木とそれをはぐくむ矢作川の流れとともに生きるライフスタイルへの誘い~矢作川デイズ~」として、市民、市町村、業界、研究者がそれぞれ、各主体に向かって提案をする「さあ~しよう」のフォーマットに基づき各自で考えてくることとなりました。

○主な意見

- 森の健康診断の手法は山の興味喚起につながるの面白い。根羽でもやりたい。(南木)
- 間伐材を使った橋りょうなどの見学会を木曽地域で経験したことがある。林野庁や地元自治体などが企画した林業ツアーは、木づかいという面で、大変有意義であったので、そのようなイベントも行えたらよい。(沖)
 - 川部会との連携という面で、木工沈床などの河川工事に関連させて木づかいを考えることもよいと思う。(洲崎)
 - 河川工事への木材供給という面では、材料を提供するための山の管理をセットでしている仕組みが新潟であったと聞いており、興味深い。(近藤)
- 地元全体で盛り上げられるような仕掛けがあるとよい。例えば、地元の木材をフリーマーケットのようなかたちで出品者、購入者が交流できると面白い。(松井)
- 木づかいの資料にある根羽村の小学校での森林学習が大変興味深い。地元で根付いたら中下流の小学生などにもぜひ体験してもらいたい。(山本)
- 都市住民の視点が欠けているので入れられないか。(近藤)
 - 都市住民にとっては、大地震など予期しないことが起きた際に、少なくとも流域圏では、山・川・海が連携して地域材の流通が実現できる点で持続可能であることを実感させるべきだと思う。(山本)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の山部会は7月25日(金)に開催します。



矢作川流域圏懇談会通信(案)

H26 山部会編 vol.3



発行日：平成26年7月25日

編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第18回山部会WGを開催しました！

7月25日(金曜日)に第18回山部会WGが開催されました。今回のWGは、午前中にトヨタ自動車(株)の「新研究開発施設」(テストコース)の視察を行い、大規模造成による山地森林地域の改変や環境負荷低減策を見学しました。

午後は豊田市役所足助支所にて会議を行い、今年度進めている4つのワーキングについて、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。



日時：平成26年7月25日(金)9時~17時

場所：トヨタ自動車(株)：新研究開発施設、豊田市役所足助支所

参加者：24名(事務局含む)

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



「山村再生担い手づくり事例集」は、山村再生の担い手が活動する団体の取材先候補について話し合い、取材者を決めるとともに、流域圏一体化や連携のとりくみについて話し合いました。

また、各部会間の連携を進めることを目指して、川部会・海部会メンバーに取材への参加を呼びかけながら進めつつ、海や川で山と関わりをもつ団体も取材先に含めて検討していくという提案がありました。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



矢作川流域圏森づくりガイドラインは、WGの中で森づくりガイドラインの策定、モデル林の設定とそこでのモニタリングの試行的実施を行うことを目的としています。

今回のWGでは、矢作川流域圏を構成する自治体の特徴的な森づくりの取り組みについて情報共有を図りつつ、流域圏懇談会に参加することを通じて、本当の意味での森林計画を作成していくことも視野に置いて、できる範囲で、柔軟に進めていくことを確認しました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動(「さあ~しよう」)を考えて、これを核とし、その行動・活動を行政・業界・研究が支援していくことを目指しています。

根羽村独自の木づかい推進活動や「とよた森林学校」の事例から学ぶ活動などの紹介を通じて、木の魅力と楽しみを考え、継続的な活動に導く行動について話し合いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集の作成スケジュールについて

以下のように進めることを想定します。

7月(取材先の選定) → 8月(取材者の募集) → 9月(取材者と取材先のマッチング)
→ 9月中旬:取材実施(11月までを予定)

●主な意見と現時点での取材先一覧

- 取材先の方々の交流会に関連して、取材者間でつながる機会がないようなので、そのような場があればよいというご意見を頂いた。(洲崎)
 - 交流の場づくりは、取材先の団体の若者達にプランを立ててもらって、協働して進める方法も考えられる。(今村)
- 昨年度の事例集作成をきっかけとして、自発的な交流がでてきた点は効果の現れの一つといえる。(丹羽)
- 取材者の人数が取材先の数に対応可能なほど集まるのか危惧している。海部会、川部会の方々の参加については、ハードルが低くないと思う。(蔵治)
 - 取材先に山にかかわりのある川の団体や海の団体を含めることも考えられないか。その方が、川・海のメンバーが行きやすいのではないかと。(高橋)
 - 今回の意見をふまえて、取材先は次回のWGで決定したい。(洲崎)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインは流域圏の森づくりのカタログを作成し、森林所有者や行政、森林組合等の情報源として活用してもらうと同時に、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とすることを目的としています。

特に、四万十川の保全及び振興に関する基本条例の事例紹介を通じて、矢水協の紳士協定にも触れながら、各自治体の取組や森づくりの方向性について共有されました。

○主な意見

- 森づくりという面で、矢作川森の健康診断の第10回検証と10年間の振り返り、10年後の流域、100年先の森づくりを展望する会が企画されており、流域圏にとっても森づくりの重要なエポックもあるので情報共有することが重要と思う(丹羽)
- 来年度は流域圏の首長による討論など源流サミットを開催できればよい(今村)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

市民、市町村、業界、研究者がそれぞれ、各主体に向かって提案をする「さあ~しよう」のフォーマットに基づいて市民がアクションを起こせるガイドラインを作成することを目的として継続して話し合いをしていくこととなりました。

特に、今回のWGでは、根羽村木のある暮らし講座や根羽村オリジナルスギダラ商品開発・森の生活実践事業、信州の木活用モデル地域支援事業などの事例紹介などが行われ、メンバーの情報共有が図ることができました

○主な意見

- 林家のモチベーションは地域によって違う。森林組合に任せるとどんな木を切られるか不安がる人もいの中で流域圏として木づかいを推進していくことが重要(安藤)
- 木工業者、製材所、建築家等の連携が重要となる。(今村)



●その他(山村ミーティングについて)

昨年度作成した山村再生担い手事例集の取材の過程で、串原農林と根羽村森林組合の若者同士が、取材後に自発的な意見交換の場もたれた例がみられました。こうした結びつきについて、山村ミーティングとして引き続きサポートをしていくことが提案されました。

○主な意見

- 豊田の若い人もいれてあげてほしい。豊田の森林組合について1ターンも結構おり、声をかければくるのでぜひ交流を図っていければよい。(山本)
- 岡崎森林組合の職員が演奏する「岡森フォレストーズ」のライブを矢作川流域圏に周知して山の仲間を集めるのも一つの手として考えられるので企画について検討したい。(丹羽)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第19回山部会は8月19日(火)岡崎ぬかた会館にて開催します。



矢作川流域圏懇談会通信(案)

H26 山部会編 vol.4



発行日：平成26年8月00日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第19回山部会WGを開催しました！

8月19日(火曜日)に第19回山部会WGが岡崎市ぬかた商工会にて開催されました。今回のWGでは、「山村再生担い手づくり事例集」、「山村ミーティング」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」の4つのワーキングについて、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。



日時：平成26年8月19日(火) 14時～17時
場所：ぬかた商工会館 2階 青年部婦人部研修室
参加者：17名(事務局含む)

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

「山村再生担い手づくり事例集」は、年度内に20件以上の活動団体への聞き取りとレポート作成を行うことを目標に、昨年度と同様に、事例集としてとりまとめることを目的としています。今回は、取材先や取材者を確認するとともに、取材者を募集する文面などを確認し、取材についての意見交換を行いました。

矢作川流域圏懇談会に所属する個人・団体の方で、取材への参加を希望する方は是非、申し込みをお願いします。



2. 山村ミーティングについて

「山村ミーティング」については、矢作川流域圏の山村で活動する個人・団体が困ったときに話し合え、様々な情報を共有可能となる仕組みづくりを行うことを目的としています。

流域圏の山村で行われている様々な取り組みや団体のイベントへの参加を通じて仕組みづくりを検討しています。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインは、矢作川流域圏の特徴的な森づくりについて所属する行政や市民の方々と森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行っています。

今回は、開催地である岡崎市における森づくりについて、市の林務課の方からご紹介いただき、流域圏の森づくりについて共有化が図られました。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現するための実践的なとりくみについて意見交換を行っています。今回も、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動(「さあ~しよう」)をイメージしながら、様々な取り組みについて情報共有が行われました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度取材を行う 21 団体と取材者募集の文面について決定し、今後は以下のように進めることとなりました。

8月(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング) → 10月～12月中旬(取材) → 調査者によるレポートの作成・提出等、事例集の完成(12月～3月までを予定)

○主な意見

- ・ 矢作川流域圏懇談会のホームページへのアップをお願いしたい。あわせて。メーリングリストでの配信も行い募集者を広く募ってほしい。(洲崎)
- ・ ホームページへは取材先リストも掲載することがよい。また、今年度の調査では、昨年度取材を行った団体以外に、新たに 21 団体を取材対象としたといったニュアンスを加えられるとよい。(山本)
- ・ 取材への参加も意義があるが、事例集の作成過程で開催する編集会議も大変有意義であるのでぜひ参加してほしい。(洲崎)
- ・ 岡崎で広く活動をしている鳥川ホタル保存会も取材先候補にしてほしい。(槇)



●山村ミーティングについて

「岡森フォレストーズ(岡崎森林組合の職員で構成されるバンド)」のライブを矢作川流域圏に周知して山の仲間を集めるなどの企画について話し合うとともに、山村活性化につながる流域内フェアトレードについて話し合いました。

流域内フェアトレードでは、おまかせ野菜ボックスの社会実験(地域外に購入者を集め、野菜ボックスの出荷者には森券で支払う仕組み)の企画などについて話し合いました。

○主な意見

- ・ 「おまかせ野菜ボックス」などは購入者向けに矢作川流域のためにもなることをPRできればよい。(洲崎)
- ・ 消費者からのニーズについても対応しつつ、交流をしていければよい。(松井)
- ・ 流域圏でやることに意味があるのでPRを進めて頂きたい。(沖)
- ・ 現金が動いた時に地域内で回るのかについて検証していくことが必要だと思う。矢作川流域圏で流通する貨幣がでてくればよい。そこに心寄せる人たちが経済を回していく仕組みができればよい。(山本)
- ・ 購入者の嗜好として地の者、旬のもの、アウトレット品を安く買いたいなど様々あるので考慮できればよい。(今村)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

流域圏の森づくりをカタログとしてまとめていく森づくりガイドラインは、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とすることを目的としています。

今回は岡崎市の森林に関する取り組みについて紹介する VTR を見ながら、メンバー間で情報共有を図り、意見交換を行いました。

○主な意見

- ・ 山を親から引き受けた側にはこれを守っていく社会的な責任がある。(槇)
- ・ 出荷された木材が、岡崎の材かどうかを確認する方法はあるのか?(今村)
 - ▶ 木材の確認には伐採届が最も正確である。(槇)
- ・ 岡崎市では 450ha ずつの間伐目標を持っているが今後も順調にいきそうか?
 - ▶ 計画より若干の差がある。補助金(愛知もりとみどり事業)がなくなったら厳しいのが実態である。(市林務課)
- ・ 森林環境税の導入を目指す他府県では、その使い道について様々な用途を検討しており今後の参考になる。(蔵治)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインでは、木づかいの推進に関わる様々な取り組みについて話し合っています。今回は、木づかい推進活動に関連して、スギダラ矢作川支部設立に向けて動き出したい、信州木材活用モデル地域活動支援事業について紹介がありました。

参加者それぞれが木づかいの推進に資する動機となる「さあ～しよう」の企画を考えてくることとなりました。

○主な意見

- ・ 木づかいガイドラインは、読んだら動きたくなるものにしていければよい。(洲崎)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次の第 20 回山部会は 9 月 19 日(金)～20 日(土)根羽村にて開催します。



矢作川流域圏懇談会通信(案)

H26 山部会編 vol.5



発行日：平成26年10月00日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第20回山部会WGを開催しました！

9月19日(金曜日)に第20回山部会WGが根羽村 しゃくなげホールにて開催されました。今回のWGでは、「山村再生担い手づくり事例集」、「木づかいガイドライン」について、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。WGの後には、流域の山の課題解決に向けた情報交換の一環として、基調講演とディスカッションを行いました。



日時：平成26年9月19日(金) 13時30分～17時30分
場所：根羽村 しゃくなげホール
参加者：26名(事務局含む)

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



「山村再生担い手づくり事例集」は、年度内に20件以上の活動団体への聞き取りとレポート作成を行うことを目標に、昨年度と同様に、事例集としてとりまとめることを目的としています。今回は、取材先や取材者を確認するとともに、取材者を募集する文面などを確認し、取材についての意見交換を行いました。

矢作川流域圏懇談会に所属する個人・団体の方で、取材への参加を希望する方は是非、申し込みをお願いします。



2. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現するための実践的なとりくみについて意見交換を行っています。

今回も、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動(「さあ～しよう」)をイメージしながら、メンバーみんなで行動について議論しました。



3. 基調講演「ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり村づくりを」を実施し、講演の感想と地域の報告と座談を行いました

流域の山の課題解決に向けた情報交換の一環として、日本全国スギダラケクラブの若杉浩一さんを講師にお招きし、「ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり村づくりを」と題した基調講演を行いました。

基調講演の後、矢作川流域圏の木づかい・森づくりのキーパーソンとのディスカッションを行いました。流域圏のキーパーソンとして、今村豊さん(根羽村森林組合)、洲崎燈子さん(矢作川研究所)、蔵治光一郎さん(東京大学)が丹羽健司さん(矢森協)の進行のもと、若杉浩一さんとともにディスカッションしました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 真柄

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度取材を行う21団体と取材者募集の文面について決定し、今後は以下のように進めることとなりました。

8月末(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング)
→ 10月~12月中旬(取材): 事前検討会 10月、中間報告会 11~12月
→ 調査者によるレポートの作成・提出、編集会議、事例集の完成(12月~3月までを予定)
→ ふりかえり(1~2月)

○主な意見

- 取材にあたっては、事前検討会、中間報告会をそれぞれ実施し、振り返りの会を企画することとして、合計3回の編集会議を設けた。(洲崎)
- 現時点で取材者として11名の応募があった。引き続き、募集を継続する。(洲崎)
- 取材について、誰がどこをやるかを決めるのはいつごろか。(今村)
 - ▶ 充分な数の取材者がそろってからマッチングを行う予定である。10月上旬を予定する。(洲崎)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインでは、木づかいの推進に関わる様々な取り組みについて話し合っています。

今回は、木づかい推進活動に関連して、スギダラ矢作川支部設立をにらみつつ、参加者それぞれが木づかいの推進に資する動機となる「さあ~しよう」の企画を考えてくることとなりました。

○主な意見

- 木づかいガイドラインの「さあ~しよう」の業界編に掲載した住宅建築フェアについては、実存する住宅メーカーが既に木曽川流域で取組を行っている。(今村)
 - ▶ 普通のハウスメーカーに比べて再生産できるか否かも含め、連携に向けた一定の課題があるが考えていければよい。(蔵治)
- 森林所有者の立場から見ると、木材は買い叩きに来る人がいるのも事実だが、下流域での利用を喚起していくことも重要である。(蔵治)



●講演会：ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり・村づくりを

スギダラ矢作川支部設立準備基調講演会として「ソウルフルな木づかいからビューティフルな森づくり村づくりを」を開催しました。基調講演ののち、会場からも意見を頂きながらディスカッションを行いました。最後に、スギダラクラブ矢作川流域圏支部の設立が、参加者一同で確認されました。(連絡先は根羽村森林組合となりました。)

○主な意見

- 活動を楽しむことができれば取組みも継続する。取組みの思考も進むため、杉を対象とした活動を「楽しむ」ということが重要と感じた。(今村)
- 地域にある木材をおしゃれにPRすることで、企業と地域とまちがつながる強力な事例と感じ、イメージの素晴らしさにも圧倒された。(洲崎)
- 森林・木材の分野では、世界的にも貨幣価値以外の価値として文化・歴史・伝統などの価値が重要視されており、若者の価値観も大きく変わっている中、それをうまくとらえながら、最先端を走っていると感じた。(蔵治)
- 木で遊べる玩具があるとよい。みんなが使えて安価で丈夫なものがあると木の利用が進むと思う。(松井)
- 木や森を見て気持ちがいいと思う気持ちを「価値」ととらえ、木材利用の推進については、みんなで共感する部分を見出しながら、地域全体で「共感価値」を生んでいくこと重要と感じた。(山本)
- 田舎で働くようになって、地域であまり木を使われていないと気付いたが、もっと利用して、デザインなどのヒントも聞けたのでよかった。(松田)
- 地域おこし協力隊で地域に入っているが、地域では意外と木が使われていないように感じている。自分の生活の中で木を使っていくことを考えている。(能見)
- 幼いころに木に触れる体験が多いと木に対する親しみもわくので、木育などが重要と思う。日本は都会に住む人が圧倒的に多い国なので、都会に住む人たちの木に対する考えを変えることは重要と感じた。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第21回山部会は10月17日(金)~18日(土)岡崎市にて開催します。



矢作川流域圏懇談会通信(案)

H26 山部会編 vol.6



発行日：平成26年11月00日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第21回山部会WGを開催しました！

10月17日(金曜日)に第21回山部会WGが岡崎市ぬかた会館にて開催されました。今回のWGでは、「山村再生担い手づくり事例集」、「森づくりガイドライン」、「木づくりガイドライン」について、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。翌日は、岡崎市の森づくり(宮崎財産区林、巴山・分水嶺など)を現地調査しました。



日時：平成26年10月17日(金) 14時00分～17時00分
場所：岡崎市 ぬかた会館 2階 会議室
参加者：32名(事務局含む)

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



「山村再生担い手づくり事例集」は、事例集の取材先候補として21団体(流域連携の面から川・海の団体も取材先に含む)を選定し、取材先と取材者のマッチングを行いました。矢作川流域圏懇談会に所属する個人・団体の方で、取材への参加を希望する方は是非、申し込みをお願いします。

事前検討会を10月31日(金)に実施し、事例集のとりまとめ・取材について検討をすすめていきます。



2. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏木づくりガイドラインについては、矢作川流域圏の木づくりの推進を実現するため、市民の視点から「さあ~しよう」の形を基本形とし、市民がアクションを起せる木づくりガイドラインを作成しています。

「さあ~しよう」のフォーマットにあわせて皆様からの提案を募集中です。既に今回のWGで示された提案については、フォーマットにまとめていくこととなりました。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



矢作川流域圏森づくりガイドラインについては、矢作川流域圏の特徴的な森づくりについて所属する行政や市民の方々から森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行っています。

今回は、蔵治座長による「広島土砂災害から考える矢作川流域土砂災害未然防止」と題した話題提供(発表)を頂いたうえで、開催地である岡崎市における森づくりについて、岡崎市(林務課)、岡崎森林組合、額田森林クラブの方からご意見などいただきながら情報共有を図りました。



4. 現地調査(岡崎市の特徴的な森づくり)



現地調査は、岡崎市内の特徴的な森づくりを中心に、宮崎財産区林、巴山・分水嶺、長坂100年長伐期林、ミツマタ長伐期林を対象に行いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度取材を行う 21 団体と取材者のマッチングを決定し、今後は以下のように進めることとなりました。

8月末(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング)
 → 10月~12月中旬(取材):事前検討会 10月、中間報告会 11~12月
 → 調査者によるレポートの作成・提出、編集会議、事例集の完成(12月~3月までを予定)
 → ふりかえり(1~2月)

○マッチング結果

取材先	取材者
木の駅ねばりん、ねば杉こ餅、竹内牧場	*沖章枝、松井賢子、浅田益章
ゴーバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館	*山本薫久、國村恵子、田中五月
三宅林業、東幡豆漁業、佐久島もんべまるけ	*丹羽健司、洲崎燈子
アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会	*蔵治浩一郎、大島光利、森本徳恵
足助里山ユースホステル、新盛里山耕流塾、近藤しいたけ園	*浜口美穂、蜂須賀功
こいけやクリエイト、アクロフェルタ、とよたプレーパークの会	*近藤朗、高橋伸夫、真柄明洋
じさんじよの会、額田林業クラブ、宮ザキ園	*今村豊、唐澤晋平

*はチームリーダー



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインについては、矢作川流域圏の特徴的な森づくりについて所属する行政や市民の方々と森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行っています。

○主な意見

- ・ 地域のみなさんには森林の重要性・間伐の重要性を理解してもらえるような活動として、間伐体験などを行っている。地域でも、ベンチやテーブルをはじめ、第2早蕨幼稚園等、公共施設に地域材を使ってもらうなど取り組んでいる。(山本)
- ・ 収入につながる起業や集団化を考えていかないと山が育っていかない。額田の中でもビジネスチャンスがあると思っているが、なかなかいいアイデアがない。(竹川)
- ・ 組合運営としてできる範囲がある。市が策定した計画に基づき 450ha を対象に、30年やる計画で動いている。国や県の補助がないと厳しいのが実態。(榎)
- ・ 森林所有者の意識はいろいろあるが植林している放置林の人たちの手助けをする。施策を考えていく必要がある。県道や市道沿いから 300m 離れた場所を対象としている。施業がしにくい箇所が対象。林道沿いこそ公的資金でやればよい。(日高)
- ・ 土砂災害について、山の上から木が流れてくると、山の下腹部で手入れをした森林の手入れが台無しになってしまうため、心配している。(沖)
- ・ 防災という面で、京都府では危険森林を条例で位置づける動きがある。間伐の義務に対する違反に対して罰則を設けている。来年春に条例化する可能性がある。(蔵治)



○「広島土砂災害から考える矢作川流域土砂災害未然防止」(話題提供:発表)

- ・ この夏、広島を襲った局地的な大雨によって生じた土砂災害と森林整備について、災害後に現地へ入った蔵治座長より話題提供がありました。発表では「森を放置することで土砂災害に繋がるケースが多いこと」や、都市化により「これまでに人が住んでいなかった地域にも住居が広がっており被害拡大の1つの要因となったこと」などのお話を頂きました。

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

スギタラケクラブ矢作川流域圏支部の設立が、参加者一同で確認されました。(連絡先は根羽村森林組合となりました。) 今後の木づかいガイドラインでは、以下の6点を中心にWGで進捗について共有することとなりました。

○主な意見

木づかいガイドライン	今後の方向性(次回WGで共有すること)
1. 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について	各提案にメンバーが該当すること等について、メンバーから意見をだしていきます。
2. 木づかいガイドラインの原稿依頼について	ガイドラインの原稿執筆についてのお願いを今後していきます。
3. 木づかい推進・木づかいガイドライン事業のための各市町村連携による予算化について	「さあ~しよう」にそって、実現性が高いテーマについて今後、検討を行っていきます。
4. スギタラどこでもシリーズの製作内容について	どこでも〇〇についてアイデアを募集します。(どこでも露天風呂、どこでもウッドデッキなど)
5. スギタラ矢作川流域支部の発定及びコンセプトについて	コンセプトを読んで感想などを次回共有します。
6. スギタラキャラバンについて	製品について根羽村森林組合が製作して矢作川流域圏でモニターを募って行くこととなりました。



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第22回山部会は11月21日(金) 恵那市にて開催します。



矢作川流域圏懇談会通信(案)

H26 山部会編 vol. 7



発行日：平成 26 年 11 月 00 日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 22 回山部会WGを開催しました！

11 月 21 日（金曜日）に第 22 回山部会WGが恵那市明智振興事務所にて開催されました。今回の WG では、「山村再生担い手づくり事例集」、「山村ミーティング」「森づかいガイドライン」、「木づかいガイドライン」について、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 26 年 11 月 21 日（金）14 時 00 分～17 時 00 分
場所：恵那市 明智振興事務所 ききょう会議室
参加者：16 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくりは、今年度取材を行う 21 団体と取材者のマッチングが前回の WG で決定され、現在、取材が進んでいる状況です。

引き続き、「山村再生担い手づくり事例集」の作成に向け、取材と編集作業を進めていきます。

なお、取材結果の中間検討会を 12 月 16 日（火）に矢作川研究所で実施し、今後の進め方や編集に向けたスケジュールなどの確認を行います。



2. 山村ミーティングについて



山村ミーティングは、矢作川流域圏でほかの団体が開催するイベントなどに合わせて情報収集を進めています。2015 年 2 月 6 日に豊田市小原で開催が予定される、車座ミーティングの案内がありました。ミーティングでは、山村の移住定住など、テーマごとに話し合いが行われる予定です。

矢作川流域圏懇談会のメンバーも活動に参加することから、バックアップしていくことになりました。



3. 矢作川流域圏森づかいガイドラインについて



森づくりガイドラインでは、矢作川流域圏にどのような森があるか等、特徴的な森づくりに関するリストを作成することになりました。

今年度の成果として、これまでに現地視察を行った「矢作川流域圏の特徴的な森づくり」や典型的な放置林、地域にある巨木などの情報収集を行っていきます。そのうえで、今後、ガイドラインに必要な情報について、その収集方法などを意見交換していきます。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



矢作川流域圏木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現化するため、市民がアクションを起せる取組などについて意見交換しています。

木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所などが具体的に示され、「さあ～しよう」のフォーマットにあわせて皆様からの提案も継続して募集中です。

また、「スギダラ「どこでも～シリーズ」の製作内容について」も「人が居心地良くいられる場所・空間」づくりのためのスギダラ製品について案が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

これまでに、今年度取材を行う 21 団体を決定し、取材者とのマッチングを行った後、取材を開始している状況です。

8月末(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング)
→ 10月~12月中旬(取材):事前検討会 10月、**中間報告会 12月16日** → 調査者によるレポートの作成・提出、編集会議、事例集の完成(12月~3月までを予定) → ふりかえり(1~2月)

○取材先と取材者のマッチング結果

取材先	取材者
木の駅ねばりん、ねば杉っこ餅、竹内牧場	*沖章枝、松井賢子、浅田益章
ゴーバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館	*山本薫久、國村恵子、田中五月
三宅林業、東幡豆漁業、佐久島もんべまるけ	*丹羽健司、洲崎燈子
アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会	*蔵治浩一郎、大島光利、森本徳恵
足助里山ユースホステル、新盛里山耕流塾、近藤しいたけ園	*浜口美穂、蜂須賀功
こいけやクリエイト、アグロブエルタ、とよたプレーパークの会	*近藤朗、高橋伸夫、真柄明洋
じさんじょの会、額田林業クラブ、宮ザキ園	*今村豊、唐澤晋平



●山村ミーティングについて

2015年2月6日のイベントでは、パネラーとして大島さん(移住定住WG)、南木さん(スモールビジネスWG)が担当します。一般参加も可能ですので是非ご参加ください。

- ・山村ミーティングは1ターンの人たちが集まるものにしていきたい。(丹羽)
- ・山村に関わるイベントに対して、矢作川流域圏懇談会は、協賛・共催など、活動をバックアップする基盤のようなかたちで関わればよい。矢作川流域圏の中の他の団体とのつながりをしていくことが重要である。(丹羽)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏にどんな森があるのかというリストアップを行います。

今年度の山部会WGで現地見学を行った結果などをふまえ、引き続き、行政から情報収集を行っていきます。

○主な意見

- ・依存体質とはどのような意味か?(今村)
 - ▶ 時限付の県税投入が経年で増加傾向にある意味で依存体質と捉える。(蔵治)
- ・緑づくり税がなくても、自伐林家的な業の動きを作り出すことが重要。(丹羽)
 - ▶ 人口が減ってきてきて財源に依存しがちだが、一方で志をもつことが重要。(今村)
 - ▶ 森林組合は眼差しの団体。色々なものを育てていき、森林組合が最初の一步を作り、手習塾などで応援していくことも重要。(丹羽)
- ・ガイドラインには、間伐の効果が時系列で理解できるものがあるとよい(高井)
 - ▶ よい例以外にも、典型的な放置林などもあると分かりやすい。(大島)
 - ▶ 森を知らない人にとっては、地域にある巨木なども見せられるとよい。(今村)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドライン作成・活動方針(案)が示され、下記の6つのことについて意見交換が行われました。

1. 木づかいガイドラインの提案者・モニター・場所について / 2. 木づかいガイドラインの原稿依頼について / 3. 木づかい推進・木づかいガイドライン事業の各市町村連携による予算化について / 4. スギダラ「どこでも〜シリーズ」の製作内容について / 5. スギダラ矢作川流域支部の発足及びコンセプトについて / 6. スギダラキャラバンについて

○主な意見

- ・木づかいガイドライン作成を通じ、山に金を戻す仕組みを見える化することが大切。流域圏でスギダラをやる意味や、木づかい推進に伴う新たな業の検討には、安心の連鎖、生活の質を高めること等も含めて考えていくことが重要。(丹羽)
- ・4については、製作が容易で手軽にできるものがあるとよい。(松井)
- ・趣味には優先的にお金を使うケースもある。ペット関係ならお金をかけてもよいなど、利用者の趣味につながるものがどこでもシリーズで検討できるとよい。(高井)
- ・矢作川は下流に非常に大きい消費地を抱えている。矢作川流域の材・木材を利用してもらおうためという言葉が入れるとよい。(高井)
- ・6は流域圏が対象範囲であることを全面にしてブレイクさせていくとよい。(丹羽)
- ・製作シリーズに小物系が少ないので今後検討し参入できるとよい。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第23回山部会は12月19日(金)豊田市にて開催します。
今年度の山部会地域部会は、1月29日に開催されます。



矢作川流域圏懇談会通信(案)

H26 山部会編 vol.8



発行日：平成26年12月00日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会事務局

◆第22回山部会WGを開催しました！

12月19日(金曜日)に第23回山部会WGが豊田市役所足助支所にて開催されました。今回のWGでは、「山村再生担い手づくり事例集」、「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」、「木づくりガイドライン」について、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。豊田市森林組合の新庁舎の見学を行いました。

日時：平成26年12月19日(金) 13時00分～17時00分
場所：豊田市役所 足助支所 2F 第3会議室
参加者：〇〇名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



今年度作成中の山村再生担い手づくり事例集の進捗報告がされました。取材結果の中間報告会が12月16日(火)に矢作川研究所で実施され、今後の進め方や編集に向けた意見交換やスケジュールなどの確認が行われました。

1月に予定されている山部会地域部会やその後の全体会議に向けて、事例集のとりまとめを進めていきます。



2. 山村ミーティングについて



山村ミーティングは、矢作川流域圏でほかの団体が開催するイベントなどの情報収集を進めながら、今後、矢作川流域圏での開催につながる内容については、企画化に向けたアイデア出しなどを行いました。

今回は中川きこり祭りのイベントについて紹介があり、他地域でも森林に関わる様々な人たちが森林の活性化に向けたイベントを行っていることを情報共有しました。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインでは、矢作川流域圏にどのような森があるか等、特徴的な森づくりに関するリストを作成しています。ガイドラインに掲載していく地域の森づくりに関する情報について話し合いが行われました。また、今回のWGの開催地にあるおいでん山村センター(豊田市足助支所)から、地域の森づくりについて情報提供があり、今後の森づくりに関してメンバーで話し合いが行われました。

今後は、山部会地域部会に向けて森づくりガイドラインの情報収集を進めていきます。



4. 矢作川流域圏木づくりガイドラインについて



矢作川流域圏の木づくりの推進を実現化するための「矢作川流域圏木づくりガイドライン」は、市民がアクションを起せる取組などについて意見交換しています。

「木づくりガイドラインの提案者・モニター・場所」や、「スギダラ「どこでも～シリーズ」の制作内容について」、「木づくり推進・木づくりガイドライン事業のための各町連携による予算化について」などが話し合われました。

また、木づくりガイドラインの作成イメージが示され、意見交換を行いました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

これまでに、今年度取材を行う 21 団体を決定し、取材者とのマッチングを行った後、取材を開始している状況です。

中間報告会 12月16日 → 調査者によるレポートの作成・提出、編集会議、事例集の完成(12月~3月までを予定) → ぶりかえり(1~2月)

○取材先と取材者のマッチング結果

取材先	取材者
木の駅ねばりん、ねば杉こ餅、竹内牧場	*冲章枝、松井賢子、浅田益章
グローバルハム、矢作川森林塾、矢作川水族館	*山本薫久、國村恵子、田中五月
三宅林業、東幡豆漁業、佐久島もんべまるけ	*丹羽健司、洲崎燈子
アンティマキ、てくてく農園、あさひ若者会	*蔵治浩一郎、大島光利、森本徳恵
足助里山ユースホステル、新盛里山耕流塾、近藤しいだけ園	*浜口美穂、蜂須賀功
こいげやクリエイティブ、アグロフェルタ、とよたプレーパークの会	*近藤朗、高橋伸夫、真柄明洋
じさんじょの会、額田林業クラブ、宮ザキ園	*今村豊、唐澤晋平

●山村ミーティングについて

北海道中川町の中川きこり祭りについて紹介がありました。2月23日(11時~16時)で予定されており、足助のもみじ祭りにも似たことをしている例できこり丸太レース等を行う予定です。森林組合や1ターンの活性化にもつながり矢作川流域圏でやれるとよい。



- ・ 岡崎森林組合のおかもりフォレストーズなどと一緒にやればよい。(山本)
 - ▶ 森の健康診断の際に演奏。九州のひとたちが呼ぶ。かっこいい大人を見せたいということ。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインの作成に向けて、特徴的な森づくりについて情報共有が行われました。

○主な意見

- ・ 空き家といっても正月やお盆などは使用し、それ以外は放置してある例が多い。(今村)
- ・ 施業主体とあるが、この場合の施業主体の育成というのはどれくらいのエリアを対象としているのか興味深い。(蔵治)
- ・ 持続可能な山づくりをしていく必要がある。農業的な暮らし、半農半林みたいなことができれば、地域や山主の営みにつながるのでは光はあると思う。(山本)
- ・ 森づくりガイドラインについて、地域の樹木についての写真はありますか。(今村)
- ・ 山村再生担い手事例集でもマップをつくるので、森づくりのものと将来的には一緒に作っていただければよい。(洲崎)
- ・ 恵那は、道の駅の前。ラフォーレと称して実施する。(蔵治)
- ・ 藤川のまつ並木も入れたい。藤川宿でまちづくり協議会も発足され(野村)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインは作成イメージの共有が行われ、その他の取り組みについて意見交換が行われました。

○主な意見

- ・ 根羽村シンポジウムについては3県合同主催の意味合いを調整したい。(高井)
- ・ シンポジウムは午後からの開催できないか。(くらじ)
- ・ 空き家活用は重要だが、地元材を使ってみんなで作ってしまうほうが早い。
 - ▶ 根羽村の小さく住まう木の住まいは800万円でするのでモデルハウスのようなものもよい。(洲崎)
- ・ 都市計画区域外だから農家の分家住宅、既存宅地でしか建てられない。(野村)
- ・ 空き家はお墓と仏壇がネック。その世話を地元がしてもらえれば。(高橋)
- ・ 釜石森林組合がB材を使った暖かい家を作ったがあれを豊田・岡崎でできればいい。また、製材屋が豊田と三好で1軒ずつしかないのでもっと増えるとよい。(鈴木)



●足助支所の見学について

昭和48年に竣工した現在の豊田森林組合本所(足助農林センター)が、老朽化により建築中です。平成27年3月の竣工をめざし建築中の現場を見学しました。



●平成26年度の山部会地域部会について

今年度の山部会地域部会では、栗原氏と青木氏の2名の方からの講演を予定しています。栗原氏は、民間の立場で企業立ち上げ、土砂。青木氏は木材流通会社に所属しており、木材を流域単位で使うということは先進的で参考になります。ぜひ、ご参加ください!

今後のスケジュール(予定)と情報提供

今年度の山部会地域部会は、1月29日に開催されます。

